

JOMF 派遣医師便り (2016. 4)

◆シンガポール◆

腎不全患者の増加

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールでは一日当たり4.7人の患者さんが末期腎不全と診断されます。年間で1700人程度の数となります。これは人口比では世界で4番目に多いとのこと。 (ちなみに世界1位はメキシコ、日本は5位)

腎不全を引き起す原因疾患として多いものには糖尿病と高血圧症の2つが挙げられます。世界的に糖尿病患者さんが増えていますが、シンガポールも例外ではなく、成人の9人に1人が糖尿病です。また、4人に1人が高血圧症です。シンガポールでは末期腎不全の患者さんの60%の原因疾患が糖尿病です。

末期腎不全の治療には腎移植や透析療法があります。腎移植は根治的ではありますが、当地でもドナーの不足は否めず、平均の待機期間は9年となっています。シンガポールにはHOTAという制度があり、21歳以上の国民および永住権保持者はあらかじめ拒否をしないかぎり、死去をすれば、原則として臓器提供者となるという制度があります。しかし、臓器移植には適合の問題もあり、現状には追いついていません。

現在、透析治療を受けている患者数はシンガポール全体で6000名ほどです。日本は約32万人で人口当たりの透析患者が世界一多い国ですが、シンガポールは、人口が日本の25分の1ですから、人口比では日本の半分ほどになります。高齢化が進んできていること、および、経済が豊かになったこと、移植ドナーの不足などが相まって透析導入例が増加していると考えられます。

シンガポール保健省は、新しい透析施設の構築や夜間透析、家庭でもできる腹膜透析を推進するなどの対策を打ち出しています。

透析患者のうち約2/3が中華系、1/4がマレー系となっていますが、人口比からしますとマレー系は中華系より40%以上多くなっています。これは生活習慣の違いが背景にあると考えられています。マレー系、特に女性では18-69歳の方々の平均のBMIは25.1ですが中華系は22.2です。また、肥満と判断される(BMI25以上)の率は中華系では21.2%なのに対し、マレー系では51.5%となり、半数を超えています。

慢性腎不全、そしてその多くの原因である糖尿病や高血圧症には生活習慣が大きく関連していると考えられますので、生活習慣の工夫で、改善や進行を遅らせることができると考えられます。これから急速に高齢化していくシンガポールでは、生活習慣病対策に、まずまず、国を挙げて積極的に取り組んでいくことになると思われます。

こうした中、高齢化社会の先を行く日本が、自国の高齢化問題をうまく扱い、よき範を示せると良いように思います。